

### 3 国際政治・外交史

#### 著書 【一般】

浅川 公紀	国際政治の構造と展開	武蔵野大学アソシエート
荒井 紀一郎	参加のメカニズム——民主主義に適應する市民の動態	木鐸社
池島 祥文	国際機関の政治経済学	京都大学学術出版会
池田 嘉郎(編)	第一次世界大戦と帝国の遺産	山川出版社
猪口 孝(日本語版監修), 猪口 孝、ジャンブロンデル(編)	民主主義と政党——ヨーロッパとアジアの42政党の実証的分析	原書房
稲田 十一	紛争後の復興開発を考える — アンゴラと内戦・資源・国家統合・中国・地雷	創成社
入江 昭	歴史家が見る現代世界	講談社現代新書
岩下 明裕(編)	領土という病——国境ナショナリズムへの処方箋	北海道大学出版会
宇佐美 誠編	グローバルな正義	勁草書房
パトリシア・オーウェンズ(著), 中本 義彦・矢野 久美子(訳)	戦争と政治の間——ハンア・アーレントの国際関係思想	岩波書店
大森 拓磨	米中経済と世界変動	岩波書店
岡田 克也	外交をひらく——核軍縮密約問題の現場で	岩波書店
岡田 泰平	「恩恵の論理」と植民地——アメリカ植民地期フィリピンの教育とその遺制	法政大学出版局
小野塚 知二	第一次世界大戦開戦原因の再検討	岩波書店
イアン・カーショー(著), 河内 隆弥(訳)	運命の選択 1940 - 41——世界を変えた10の決断 (上) (下)	白水社
片山 博文	北極をめぐる気候変動の政治学——反所有的コモンズ論の試み	文真堂
君島 東彦、名和 又介、横山 治生(編)	戦争と平和を問いなおす——平和学のフロンティア	法律文化社
チャールズ・P・キンドルバーガー、R・Z・アリバー(著), 高遠 裕子(訳)	熱狂、恐慌、崩壊——金融危機の歴史 (原著第6版)	日本経済新聞出版社
フレデリック・ケンブ(著), 宮下 嶺夫(訳)	ベルリン危機1961ケネディとフルシチョフの冷戦 (上) (下)	白水社
黒田 明伸	貨幣システムの世界史〈非対称性〉をよむ 増補新版	岩波書店
黒柳 米司(編)	「米中対峙」時代のASEAN——共同体への進化と対外関与の拡大	明石書店
小林 良彰、岡田 陽介、鷺田 任那、金 允希	代議制民主主義の比較研究——日米韓3ヶ国における民主主義の実証分析	慶應義塾大学出版会
小松 志朗	人道的介入——秩序と正義、武力と外交	早稲田大学出版会
崔 慶原	冷戦期日韓安全保障関係の形成	慶應義塾大学出版会
柴山 太(編)	日米関係史研究の最前線	関西学院大学総合政策学部
菅 英輝(編)	冷戦と同盟——冷戦終焉の視点から	松籟社
鈴木 早苗	合意形成モデルとしてのASEAN——国際政治における議長国制度	東京大学出版会
ベン・ステイル(著), 小坂 恵理(訳)	ブレトンウッズの闘い——ケインズ、ホワイトと新世界秩序の創造	日本経済新聞出版社
田岡 良一	国際法上の自衛権 (新装版)	勁草書房
高橋 良輔、大庭 弘継(編)	国際政治のモラル・アポリア——戦争/平和と揺らぐ倫理	ナカニシヤ出版
滝田 賢治(編)	アメリカがつくる国際秩序	ミネルヴァ書房
田多 英範(編)	世界はなぜ社会保障制度を創ったのか——主要9カ国の比較研究	ミネルヴァ書房
田辺 俊介(編)	民主主義の「危機」——国際比較調査からみる市民意識	勁草書房
玉井 雅隆	CSCE少数民族高等弁務官と平和創造	国際書院
土山 實男	安全保障の国際政治学——焦りと傲り 第二版	有斐閣
豊下 檜彦、古関 彰一	集団的自衛権と安全保障	岩波新書
中村 靖彦	TPPと食料安保 ——韓米FTAから考える	岩波書店
新山 智基	顧みられない熱帯病と国際協力——ブルーリ潰瘍支援における小規模NGOのアプローチ	学文社
スティーブン・パートバック(著), 水上 徹男、細萱 伸子、本田 量久(訳)	トランスナショナリズム	日本評論社
林 博史	裁かれた戦争犯罪——イギリスの対日戦犯裁判	岩波書店
エティエンヌ・バリバル、イマニユエル・ウォーラーズティン	人種・国民・階級——「民族」という曖昧なアイデンティティ	唯学書房
マイケル・エリオット・ハワード, (訳) 馬場 優	第一次世界大戦	法政大学出版局
トマ・ピケティ(著), 山形 浩生、守岡 桜、森本 正史(訳)	21世紀の資本	みすず書房
キャロル・ペイトマン(著), 山田 竜作(訳)	秩序を乱す女たち?——政治理論とフェミニズム	法政大学出版局
広島市立大学国際学部国際政治・平和フォーラム(編)	世界の眺めかた——理論と地域からみる国際関係	千倉書房
藤本 博	ヴェトナム戦争研究——「アメリカの戦争」の実相と戦争の克服 (南山大学学術叢書)	法律文化社
ヘンリー・ブレイディ、デヴィッド・コリアー(編), 泉川 泰博、宮下 明聡(訳)	社会科学の方法論争 [原著第2版] ——多様な分析道具と共通の基準	勁草書房
T. ボグントケ、P. ウェブ(編)	民主政治はなぜ「大統領制化」するのか——現代民主主義国家の比較研究	ミネルヴァ書房
牧野 裕	IMFと世界銀行の誕生——英米の通貨協力とブレトンウッズ会議	日本経済評論社
松本 悟	調査と権力——世界銀行と「調査の失敗」	東京大学出版会
エルネスト・マンデル(著), 湯川 順夫、山本 ひろし、西島 栄、志田 昇(訳)	第二次世界大戦とは何だったのか	拓植書房新社

増永 真	アメリカの対日通貨政策の形成——1971—2003年の日米通貨交渉を事例として	春風社
三浦 まり、衛藤 幹子 (編)	ジェンダー・クォータ——世界の女性議員はなぜ増えたのか	明石書店
三牧 聖子	戦争違法化運動の時代——「危機の20年」のアメリカ国際関係思想	名古屋大学出版会
宮田 昌明	英米世界秩序と東アジアにおける日本——中国をめぐる協調と相克 一九〇六～一九三六	錦正社
エマ・モーズリー(著), 佐藤 眞理子、加藤 佳代 (訳)	国際開発援助の変貌と新興国の台頭——被援助国から援助国への転換	明石書店
森 千香子、エレンルバイ (編)	国境政策のパラドクス	勁草書房
イアン・モリス (著), 北川 知子 (訳)	人類5万年 文明の興亡——なぜ西洋が世界を支配しているのか (上) (下)	筑摩書房
ジョン・ジェラルド・ラギー (著), 東澤 靖 (訳)	正しいビジネス 世界が取り組む「多国籍企業と人権」の課題	岩波書店
アレンド・レイプハルト(著), 粕谷 祐子、菊池 啓一 (訳)	ポリティカル・サイエンス・クラシックス2 民主主義対民主主義 [原著第2版] ——多数決型とコンセンサス型の36カ国比較研究	勁草書房
安田 佳代	国際政治のなかの国際保健事業——国際連盟保健機関から世界保健機関、ユニセフへ	ミネルヴァ書房
矢野 久美子	ハンナ・アーレント——「戦争の世紀」を生きた政治哲学者	中公新書
山室 信一、岡田 暁生、小関 隆、藤原 辰史 (編)	現代の起点 第一次世界大戦 第1巻 世界戦争	岩波書店
山室 信一、岡田 暁生、小関 隆、藤原 辰史 (編)	現代の起点 第一次世界大戦 第2巻 総力戦	岩波書店
山室 信一、岡田 暁生、小関 隆、藤原 辰史 (編)	現代の起点 第一次世界大戦 第3巻 精神の変容	岩波書店
山室 信一、岡田 暁生、小関 隆、藤原 辰史 (編)	現代の起点 第一次世界大戦 第4巻 遺産	岩波書店
山本 啓	パブリック・ガバナンスの政治学	勁草書房
山本 武彦 (編)	市民社会の成熟と国際関係 (早稲田大学現代政治経済研究所研究叢書)	志學社
山本 正・細川 道久 (編)	コモンウェルスとは何か——ポスト帝国時代のソフトパワー	ミネルヴァ書房
吉川 久治	国際通貨・金融危機と発展途上国	新日本出版社
吉田 文彦	データが語るメディアの国際報道 (東海大学文学部叢書)	東海大学出版部
渡邊 昭夫、村松 岐夫、大嶽 秀夫、牧原 出、成田 龍一 (著), 福永 文夫、河野 康子 (編)	戦後とは何か——政治学と歴史学の対話 上	丸善出版
加藤 陽子、雨宮 昭一、鹿毛利 枝子、天川 晃、猪木 武徳、五百旗頭 真 (著), 福永 文夫、河野 康 (編)	戦後とは何か——政治学と歴史学の対話 下	丸善出版
渡辺 節夫 (編)	近代国家の形成とエスニシティ——比較史的研究 (青山学院大学総合研究所叢書)	勁草書房

## 【日本関係】

旭 英昭	平和構築論を再構築する——日本はイニシアティブを発揮できるか	日本評論社
天川 晃	占領下の日本——国際環境と国内体制	現代史料出版
石井 裕晶	制度変革の政治経済過程——戦前期日本における営業税廃止運動の研究	早稲田大学出版部
五百旗頭 真	日本は衰退するのか	千倉書房
伊勢 弘志	近代日本の陸軍と国民統制——山縣有朋の人脈と宇垣一成	校倉書房
猪口 孝、ジャン・ブロンデル(編)	現代日本の政治と外交3 民主主義下の政党の役割	原書房
猪口 孝(監修)	現代日本の政治と外交4 日本とドイツ——戦後の政治的変化	原書房
猪口 孝(監修・編), ジョン・G・アイケンベリー(編)	現代日本の政治と外交5 日本・アメリカ・中国——錯綜するトライアングル	原書房
遠藤 誠治、遠藤 乾(責任編集)	シリーズ日本の安全保障 第1巻 安全保障とは何か	岩波書店
北岡 伸一(監修), 宮城 大蔵(編)	戦後アジアの形成と日本 歴史のなかの日本政治5	中央公論新社
北岡 伸一(監修), 松田 宏一郎・五百旗頭 薫(編)	自由主義の政治家と政治思想 歴史のなかの日本政治1	中央公論新社
ジョン・C・キャンベル(著), 真 淵 勝 (訳)	ポリティカル・サイエンス・クラシックス 自民党政権の予算編成	勁草書房
ベイツ・ギル (著), 進藤 榮一 (監訳), 古澤 嘉朗、畠山 京子 (訳)	巨龍・中国の新外交戦略——日本はどう向き合うべきか	柏書房
栗田 匡相、野村 宗訓、鷺尾 友春 (編)	日本の国際開発援助事業	日本評論社
国士舘大学法学部比較法制研究所 (監修), 松元直歳 (編・監訳), 山本昌弘(要訳)	明治百年史叢書 極東国際軍事裁判審理要録 第2巻 東京裁判英文公判記録要訳	原書房
後藤 謙次	ドキュメント 平成政治史 1 崩壊する55年体制	岩波書店
後藤 謙次	ドキュメント 平成政治史 2 小泉劇場の時代	岩波書店
後藤 謙次	ドキュメント 平成政治史 3 幻滅の政権交代	岩波書店
近藤 正己、北村 嘉恵 (編)	内海忠司日記 1940 - 1945——総力戦体制下の台湾と植民地官僚	京都大学学術出版会
佐道 明広	沖縄現代政治史——「自立」をめぐる攻防	吉田書店
樋口 直人	日本型排外主義	名古屋大学出版会
信夫 隆司	日米安保条約と事前協議制度 (日本大学法学部叢書)	弘文堂
添谷 芳秀、田所 昌幸、ディヴィッド・ウェルチ (編)	「普通」の国 日本	千倉書房
進藤 久美子	市川房枝と「大東亜戦争」——フェミニストは戦争をどう生きたか	法政大学出版局
月脚 達彦	福沢諭吉と朝鮮問題——「朝鮮改造論」の展開と蹉跌	東京大学出版会
戸部 良一 (編)	近代日本のリーダーシップ——岐路に立つ指導者たち	千倉書房
服部 龍二	大平正芳——理念と外交	岩波現代全書
藤本 一美	日本政治の転換1997-2013	専修大学出版局
柳澤 協二	亡国の安保政策——安倍政権と「積極的平和主義」の畏	岩波書店

歴史学研究会、日本史研究会 (編)	「慰安婦」問題を／から考える——軍事性暴力と日常世界	岩波書店
若月 剛史	戦前日本の政党内閣と官僚制	東京大学出版会
和足 憲明	地方財政赤字の実証分析——国際比較における日本の実態	ミネルヴァ書房

[アジア・中東・アフリカ・ラテンアメリカ・オセアニア関係]

新木 秀和	先住民運動と多民族国家——エクアドルの事例研究を中心に (神奈川 大学人文学研究叢書)	御茶の水書房
青山 治世	近代中国の在外領事とアジア	名古屋大学出版会
青山 弘之 (編)	「アラブの心臓」に何が起きているのか——現代中東の実像	岩波書店
網中 昭世	植民地支配と開発——モザンビークと南アフリカ金鉱業 (山川歴史モ ノグラフ)	山川出版社
池上 奈美江	イスラーム世界のジェンダー秩序——「アラブの春」以降の女性たちの 闘い	明石書店
石黒 馨、初谷 譲治 (編)	創造するコミュニティ——ラテンアメリカの社会関係資本	晃洋書房
猪口 孝	データから読む アジアの幸福度——生活の質の国際比較	岩波現代全書
岩崎 育夫	アジアの国家史——民族・地理・交流	岩波現代全書
上谷 直克 (編)	研究双書 「ポスト新自由主義期」ラテンアメリカにおける政治参加	アジア経済研究所
ヴォー・グエン・ザップ (著), 古 川 久雄 (訳)	愛国とは何か——ヴェトナム戦争回顧録を読む (学術選書)	京都大学学術出版会
絵所 秀紀、佐藤 隆広 (編)	激動のインド 第3巻 経済成長のダイナミズム	日本経済評論社
江藤 名保子	中国ナショナリズムのなかの日本——「愛国主義」の変容と歴史認識問 題 (現代中国地域研究叢書)	勁草書房
岡本 隆司 (編)	宗主権の世界史——東西アジアの近代と翻訳概念	名古屋大学出版会
太田 淳	近世東南アジア世界の変容——グローバル経済とジャワ島地域社会	名古屋大学出版会
大庭 三枝	重層的な地域としてのアジア——対立と共存の構図	有斐閣
大林 稔、西川 潤、阪本 公美子 (編)	新生アフリカの内的発展——住民自立と支援	昭和堂
笠原 十九司	第一次世界大戦期の中国民族運動——東アジア国際関係に位置づけて	汲古書院
加藤 美保子	アジア太平洋のロシア——冷戦後国際秩序の模索と多国間主義	北海道大学出版会
ブルース・カミングス (著), 栗原 泉、山岡 由美 (訳)	朝鮮戦争論——忘れられたジェノサイド	明石書店
北岡 伸一 (監修), 川島 真 (編)	近代中国をめぐる国際政治——歴史のなかの日本政治 3	中央公論新社
北川 勝彦、高橋 基樹 (編)	現代アフリカ経済論	ミネルヴァ書房
北村 由美	インドネシア 創られゆく華人文化——民主化以降の表象をめぐって	明石書店
金正恩 (著), チェチェ思想国際研 究所 (編)	金正恩著作集	白峰社
ローリー・キャロル (著), 伊高 浩昭 (訳)	ウーゴ・チャベス——ベネズエラ革命の内幕	岩波書店
久保 亨、波多野 澄雄、西村 成雄 (編)	日中戦争の国際共同研究 5 戦時期中国の経済発展と社会変容	慶應義塾大学出版会
久保 忠行	難民の人類学——タイビルマ国境のカレンニー難民の移動と定住	清水弘文堂書房
倉沢 愛子	9・30 世界を震撼させた日——インドネシア政変の真相と波紋	岩波現代全書
栗田 禎子	中東革命のゆくえ——現代史のなかの中東・世界・日本	大月書店
黒岩 郁雄 (編)	東アジア統合の経済学	日本評論社
呉 茂松	現代中国の維権運動と国家	慶應義塾大学出版会
小杉 泰	9・11以後のイスラーム政治	岩波現代全書
駒野 欽一	変貌するイラン——イスラーム共和国体制の思想と核疑惑問題	明石書店
齊藤 哲郎	チャイナ・イデオロギー (大東文化大学国際比較政治研究所叢書)	彩流社
佐々木 紳	オスマン憲政への道	東京大学出版会
佐原 徹哉	中東民族問題の起源——オスマン帝国とアルメニア人	白水社
鐸木 昌之	北朝鮮 首領制の形成と変容——金日成、金正日から金正恩へ	明石書店
須永 恵美子	現代パキスタンの形成と変容——イスラーム復興とウルドゥー語文化	ナカニシヤ出版
末廣 昭著	新興アジア経済論——キャッチアップを超えて	岩波書店
園田 茂人 (編)	日中関係史 1972-2012 IV 民間	東京大学出版会
高橋 和之 (編)	日中における西欧立憲主義の継受と変容	岩波書店
高橋 勝幸	アジア冷戦に挑んだ平和運動——タイ共産党の統一戦線活動と大衆参加	早稲田大学出版会
高原 明生、菱田 政春、村田 雄二 郎、毛里 和子 (編)	共同討議 日中関係 何が問題か——1972年体制の再検証	岩波書店
高原 明生、前田 宏子	シリーズ 中国近現代史 5 開発主義の時代へ 1972-2014	岩波新書
武内 房司 (編)	戦争・災害と近代東アジアの民衆宗教	有志舎
ティムール・ダダバエフ	中央アジアの国際関係	東京大学出版会
趙 景達、原田 敬一、村田 雄二 郎、安田 常雄 (編)	講座 東アジアの知識人 第4巻 戦争と向き合って	有志舎
趙 景達、原田 敬一、村田 雄二 郎、安田 常雄 (編)	講座 東アジアの知識人 第5巻 さまざまな戦後	有志舎
津守 滋	ミャンマーの黎明——国際関係と内的変革の現代史	彩流社
トビー・ドッジ (著), 山岡 由美 (訳)	イラク戦争は民主主義をもたらしたのか	みすず書房
ジョージ・トンプソン (著), ハ ル吉 (訳), 藤掛 洋子、高橋健二 (監修)	パラグアイ戦争史——トンプソンが見たパラグアイと三国同盟戦争	中南米マガジン
内藤 正典 (編)	イスラーム世界の挫折と再生——「アラブの春」後を読み解く	明石書店
中兼 和津次 (編)	早稲田大学現代中国研究叢書 3 中国経済はどう変わったか 改革開放 以後の経済制度と政策を評価する	国際書院
中島 岳志	アジア主義——その先の近代へ	潮出版社
中島 偉晴	コーカサスと黒海の資源民族紛争	明石書店
中野 勝一	パキスタン政治史——民主国家への苦難の道	明石書店
新村 容子	アヘン戦争の起源——黄爵滋と彼のネットワーク	汲古書院

西川 博史	戦中戦後の中国とアメリカ・日本——「東アジア統合構想」の歴史的検証	HINAS
西口 清勝、西澤 信善(編)	メコン地域開発とASEAN共同体	晃洋書房
西村 閑也、鈴木 俊夫、赤川 元章	国際銀行とアジア 1870-1913	慶應義塾大学出版会
沼崎 一郎	台湾社会の形成と変容——二元・二層構造から多元・多層構造へ	東北大学学術出版会
荻野 浩基(編)	高齢社会の課題とアジア共同体	芦書房
長谷川 雄一(編)	アジア主義思想と現代	慶應義塾大学出版会
馬場 毅、謝 政論(編)	民主と兩岸関係についての東アジアの観点	東方書店
林 載桓	人民解放軍と中国政治——文化大革命から鄧小平へ	名古屋大学出版会
廣田 功、加賀美 充洋(編)	東アジアにおける経済統合と共同体	日本経済評論社
福井 清一(編)	新興アジアの貧困削減と制度——行動経済学的視点を据えて	勁草書房
古川 光明	国際援助システムとアフリカ——ポスト冷戦期「貧困削減レジーム」を考える	日本評論社
細田 尚美(編)	湾岸アラブ諸国の移民労働者——「多外国人国家」の出現と生活実態	明石書店
松本 ますみ(編)	中国・朝鮮族と回族の過去と現在——民族としてのアイデンティティの形成をめぐって	創土社
水島 司(編)	激動のインド 第1巻 変動のゆくえ	日本経済評論社
水島 司、川島 博之(編)	激動のインド 第2巻 環境と開発	日本経済評論社
宮地 隆廣	解釈する民族運動——構成主義によるボリビアとエクアドル	東京大学出版会
柳澤 悠	現代インド経済	名古屋大学出版会
山本 達也	革命と騒乱のエジプト——ソーシャルメディアとピーク・オイルの政治学	慶應義塾大学出版会
柳澤 悠	現代インド経済——発展の淵源・軌跡・展望	名古屋大学出版会
山田 美和	東アジアにおける移民労働者の法制度——送出国と受入国の共通基盤の構築に向けて (研究双書)	アジア経済研究所
山根 健至	フィリピンの国軍と政治——民主化後の文民優位と政治介入	法律文化社
楊 海英	ジェノサイドと文化大革命——内モンゴルの民族問題	勉誠出版
吉岡 明子、山尾 大(編)	「イスラーム国」の脅威とイラク	岩波書店
吉岡 吉典	日韓基本条約が置き去りにしたもの——植民地責任と真の友好	大月書店
古川 光明	国際援助システムとアフリカ——ポスト冷戦期「貧困削減レジーム」を考える	日本評論社
和田 春樹、後藤 乾一、木畑 洋一、山室 信一、趙 景達、中野 聡、川島 真	東アジア近現代通史——19世紀から現在まで (上) (下)	岩波全書
渡辺 昭一(編)	コロombo・プラン——戦後アジア国際秩序の形成	法政大学出版局
渡辺 惣樹	朝鮮開国と日清戦争——アメリカはなぜ日本を支持し、朝鮮を見限ったか	草思社

#### 【アメリカ・ヨーロッパ関係】

マーク・R・アムスタッツ(著)、加藤 万里子(訳)	エヴァンジェリカルズ——アメリカ外交を動かすキリスト教福音主義 (ヒストリカルスタディーズ)	太田出版
池上 大祐	アメリカの太平洋戦略と国際信託統治——米國務省の戦後構想 1942~1947	法律文化社
石井 修(監修)	アメリカ合衆国 対日政策文書集成 第XXXIV期 ——ニクソン大統領文書15—	柏書房
石黒 一憲	スイス銀行——秘密と国際課税	信山社出版
石崎 昭彦	アメリカ新金融資本主義の成立と危機	岩波書店
板橋 拓己	アデナウアー——現代ドイツを創った政治家	中公新書
リチャード・ウォーリン(著)、福岡 愛子(訳)	1968 パリに吹いた「東風」——フランス知識人と文化大革命	岩波書店
遠藤 乾(編)	ヨーロッパ統合史 増補版	名古屋大学出版会
大芝 亮(編)	ヨーロッパがつくる国際秩序	ミネルヴァ書房
尾上 修悟	欧州財政統合論——危機克服への連帯に向けて	ミネルヴァ書房
フィデル・カストロ・ルス(著)、工藤 多香子、田中 高、富田 君子(訳)	キューバ革命勝利への道——フィデルカストロ自伝	明石書店
金井 雄一	ポンドの譲位——ユーロダラーの発展とシティの復活	名古屋大学出版会
ドリス・カーンズ・グッドウィン(著)、砂村 榮利子、山下淑美(訳)	フランクリン・ローズヴェルト 上 日米開戦への道	中央公論新社
ドリス・カーンズ・グッドウィン(著)、砂村 榮利子、山下淑美(訳)	フランクリン・ローズヴェルト 下 激戦の果てに	中央公論新社
ハルトムート・ケルブレ(著)、永岑 三千輝(監訳)	冷戦と福祉国家——ヨーロッパ 1945~89年	日本経済評論社
上坂 昇	アメリカの黒人保守思想 ——反オバマの黒人共和党勢力	明石書店
柑本 英雄	EUのマクロリジョン——欧州空間計画と北海バルト海地域協力	勁草書房
滝田 賢治(編)	アメリカがつくる国際秩序	ミネルヴァ書房
昔農 英明	「移民国家ドイツ」の難民保護政策	慶應義塾大学出版会
中島 醸	アメリカ国家像の再構成——ニューディール・リベラル派とロバート・ワグナーの国家構想	勁草書房
中西 輝政	アメリカ外交の魂——帝国の理念と本能	文春学藝ライブラリー
西田 慎、近藤 正基(編)	現代ドイツ政治——統一後の20年	ミネルヴァ書房
西山 隆行	アメリカ政治——制度・文化・歴史	三修社
ヴァレリー・ノールズ(著)、細川 道久(訳)	カナダ移民史多民族社会の形成	明石書店
平野 千果子	フランス植民地主義と歴史認識	岩波書店
ウォルター・ラッセル・ミード(著)、寺下 滝郎(訳)	神と黄金——イギリス、アメリカはなぜ近現代世界を支配できたのか (上) (下)	青灯社
山岸 敬和	アメリカ医療制度の政治史——20世紀の経験とオバマ	名古屋大学出版会
横手 慎二	スターリン——「非道の独裁者」の実像	中公新書

吉岡 潤	ポーランド史史料叢書 戦うポーランド——第二次世界大戦とポーランド	東方書店
渡辺 容一郎	イギリス政治の変容と現在	晃洋書房
ニコラス・ワブショット(著),久保恵美子(訳)	レーガンとサッチャー——新自由主義のリーダーシップ	新潮選書

**【資料】**

H・P・ウィルモット(著),五百旗頭真、等松 春夫(監修),山崎 正浩(訳)	第一次世界大戦の歴史大図鑑	創元社
小寺 彰、中川 淳司(編)	基本経済条約集 (第2版)	有斐閣
外務省国際協力局(編)	政府開発援助 (ODA) 国別データブック2013	昭和情報プロセス
ジョージ・C・コーン(著),鈴木主税、浅岡 政子(訳)	世界戦争事典 (改訂増補第2版)	河出書房新社
国際復興開発銀行(編),田村 勝省(訳)	世界開発報告 (2014)	一灯社
国際連合統計局(編),高橋 重郷(翻訳監修)	国際連合世界人口年鑑2012	原書房
国際連合統計局(編),高橋 重郷(翻訳監修)	貿易統計年鑑2012 vol. 61	原書房
国連大学 地球環境変化の人間社会的側面に関する国際研究計画国連環境計画(編),植田和弘、山口臨太郎(訳),武内和彦(監修)	国連大学 包括的「富」報告書——自然資本・人工資本・人的資本の国際比較	明石書店
佐藤 寛(監修),国際開発学会ほか(編)	国際協力用語集 (第4版)	国際開発ジャーナル
長南 政義(編)	日露戦争第三軍関係史料集 大庭二郎日記・井上幾太郎日記でみる旅順・奉天戦	国書刊行会
三宅 泰雄、檜山 義夫、草野 信男(監修),第五福竜丸平和協会(編)	新装版 ビキニ水爆被災資料集	東京大学出版会

論文  
[一般]

[一般]	国際人道システムの発展と国際連合——国内避難民支援における機関調整を事例として	国連研究15
秋山 信将	グローバル・コモنزと核不拡散秩序	国連研究15
足立 研幾	新たな規範の伝播失敗	国際政治176
飯田 敬輔、境家 史郎	外交と世論——国民は両者の関係をどのように捉えているか	レヴィアサン54
五十嵐 元道	トランスディーシップと人道主義	国際政治175
池島 大策	公共圏におけるグローバル・コモنزの安定的利用と国連の役割	国連研究15
石井 由梨佳	公海と排他的経済水域における「上空飛行の自由」の意義——防空識別圏を巡る実行を中心に	国際安全保障42(1)
石田 淳	動く標的—慎重するリアリズムの歴史的文脈	国際政治175
岩崎 正洋	大統領制化と政党政治のガバナンス	年報政治学65(2)
上村 雄彦	グローバル金融が地球共有財となるために ——タックス・ヘイブン、「ギャンブル経済」に対する処方箋	国連研究15
遠藤 誠治	歴史的な文脈の中の国際政治理論	国際政治175
ヴィラユース・カンチューチャット	「中所得国の罨」をめぐる議論 現状分析と将来予測	国際問題633
北野 充	パブリック・ディプロマシーの時代	国際問題635
木宮 正史	政権交代と外交	国際政治177
栗崎 周平、黄 太熙	国際危機と政治リスク—観衆費用モデルの構造推定	レヴィアサン54
小谷 哲男	海洋安全保障の今日的課題——海上における危機管理	国際安全保障42(1)
篠原 初枝	国際法学から国際政治理論へ	国際政治175
齊藤 孝祐	米国の安全保障政策における無人化兵器への取り組み——イノベーションの実行に伴う政策調整の諸問題	国際安全保障42(2)
佐藤 丙午	致死性自律兵器システム(LAWS)をめぐる諸問題	国際安全保障42(2)
志村 真弓	「保護する責任」をめぐる行動基準論争	国際政治176
高山 巖	古典期主権論争史・序説	年報政治学65(1)
高澤 洋志	保護する責任(R2P)論の「第3の潮流」——2009年以降の国連における言説・実践を中心に	国連研究15
段家 誠	世界銀行をめぐる2つのNGO関係	国連研究15
陶山 宣明	政権交代と移民政策	国際政治177
直井 恵、久米 郁男	人々はなぜ農業保護を支持するのか?——サーベイ実験から見えてくるもの	レヴィアサン55
西村 邦行	日本の国際政治学形成における理論の〈輸入〉	国際政治175
橋本 靖明、奥平 穰治、河野 桂子、大瀧 明弘	主要先進国における在外自国民保護の取り組み	防衛研究所紀要17(1)
秦野 貴光	平和的改革と国際社会論	国際政治176
長谷川 将規	経済と安全保障の交差点	国際問題634
原 洋之介	「中所得国の罨」をどう捉えるか	国際問題633
毛利 聡子	グローバル気候ガバナンスを解剖する ——気候正義運動からの批判	国連研究15
山下 光	新人道主義とポスト冷戦期の世界政治	国際政治175
山口 航	新冷戦初期における紛争周辺国への援助——戦略援助の「発見」と「擬装」	国際安全保障42(2)
湯川 拓	国際社会における規範としての勢力均衡とその存立基盤	国際政治176
湯川 拓	民主主義体制と国際関係：動的な理論枠組みの構築に向けて	レヴィアサン54
Han Dorussen and Emil J. Kirchner	Better a good neighbor than a distant friend: the scope and impact of regional security organizations	International Relations of the Asia-Pacific14(1)
Maki Ikeda and Atsushi Tago	Winning over foreign domestic support for use of force: power of diplomatic and operational multilateralism	International Relations of the Asia-Pacific14(2)
Tongfi Kim	Asymmetric strategic problem in nuclear nonproliferation	International Relations of the Asia-Pacific14(2)

[日本関係]

荒井 紀一郎、泉川 泰博	日本人はどの程度武力行使に前向きなのか?——尖閣諸島有事シミュレーションを用いた選択実験	レヴィアサン54
荒木 光弥	日本のODA政策体系の過去と現在と未来	国際問題637
シロウ・アームストロング	経済が政治に先行し続ける日中関係	国際問題634
天児 慧	日中の外交態様の相違と中国の外交行動	アジア研究60(1)
石田 智範	日米関係における対韓国支援問題、1977-1981年	国際政治176
石澤 靖治	日米同盟の動揺と世論	海外事情62(7・8)
馬田 啓一	TPP交渉とアジア太平洋の通商秩序	国際問題632
大村 啓喬、大村 華子	武力衝突と日本の世論の反応	レヴィアサン54
岡部 恭宣	青年海外協力隊の50年	国際問題637
柿原 国治	安定の鍵としての対中カウンター・バランス	アジア研究60(4)
川上 高司	オバマ・ドクトリンと日米同盟	海外事情62(7・8)
香田 洋二	日本海洋戦略の課題——米中の安全保障政策・戦略と我が国の対応策	国際安全保障42(1)
金子 将史	転換期を迎える日本のパブリック・ディプロマシー	国際問題635
酒井 哲哉	永井陽之助と戦後政治学	国際政治175
坂口 大作	在外米軍基地と「借地」の価値——米国はなぜ、基地を得るために領土を支配しなかったのか	国際安全保障42(3)
真田 尚剛	新防衛力整備計画の再考——策定過程における防衛力整備の方向性を中心に	国際安全保障42(1)

高木 誠一郎	米中関係と日本—冷戦後から現在まで	国際問題628
高光 佳絵	国際主義知識人のトランスナショナル・ネットワークと 満洲問題—「太平洋問題調査会 (IPR)」における 中国をめぐる日米英関係	史学雑誌123(11)
立川 京一	我が国の戦前の駐在武官制度	防衛研究所紀要17(1)
塚本 勝也	精密誘導兵器拡散の東アジアへの影響	防衛研究所紀要17(1)
樋口 真魚	モントルー会議 (1936年) と日本外務省—国際連盟脱退後における二つの連盟観	史学雑誌123(6)
黄 洗姫	沖縄返還と日米安全保障協議	国際政治177
藤原 修	日本の平和運動—思想・構造・機能	国際政治175
ブルネンドラ・ジェイン	日本の対外援助政策と国益	国際問題637
本多 倫彬	イラク人道復興支援と国連PKOへの自衛隊派遣—自衛隊の民生支援の発展におけるイラク派遣の意味に焦点を当てて	国際安全保障42(3)
星野 俊也	日本のODAと「人間の安全保障」	国際問題637
中川 淳司	メガFTAの時代 その背景と日本の通商政策の課題	国際問題632
信夫 隆司	ウォルツは国際政治理論の世界に何を残したのか	国際政治178
千々和 泰明	戦後日本の安全保障政策に関する分析枠組みとしての「防衛力整備／運用」	年報政治学65(1)
溝口 修平	日ソ国交正常化交渉に対する米国の政策の変化と連続性	国際政治176
森本 正崇	自衛隊による警察活動における武器使用規定の検討—危害許容要件を中心に	国際安全保障42(3)
森本 敏	日米同盟の現状と将来	海外事情62(7・8)
柳原 透	国際援助潮流と日本のODA	国際問題637
米山 多佳志	第2次世界大戦後の韓国・日本の再軍備と在韓・在日米軍事顧問団の活動	防衛研究所紀要16(2)
渡邊 昭夫	米中関係をめぐる日本の戦略—東アジア国際政治の新しい動態	国際問題628
渡邊 頼純	日本・EU経済連携協定 (EPA) 新たな日EU関係強化への歩みと展望	国際問題632
Koji Kagotani and Yuki Yanai	External threats, US bases, and prudent voters in Okinawa	International Relations of the Asia-Pacific14(1)
Koji Kagotani, Kan Kimura and Jeffrey R. Weber	Democracy and diversionary incentives in Japan-South Korea dispute	International Relations of the Asia-Pacific14(1)
Michael Strausz	Executive, legislatures, and whales: the birth of Japan's scientific whaling regime	International Relations of the Asia-Pacific14(3)
Hiroki Takeuchi	Sino-Japanese relations: power, interdependence, and domestic politics	International Relations of the Asia-Pacific14(1)

#### [アジア・中東・アフリカ・ラテンアメリカ・オセアニア関係]

愛甲 雄一	「新しい戦争」論と東北アジア—地域平和の構築に向けて	アジア太平洋研究39
青山 瑠妙	防衛的、積極的、そして攻撃的パブリック・ディプロマシー—中国における3つの要素	国際問題635
青山 弘之	アサド大統領再選がシリアの紛争において持つ含意	中東研究521
阿部 純一	中国がカギを握る東アジアの平和構築	アジア研究60(4)
阿南 友亮	海洋に賭ける習近平政権の「夢」 「平和的発展」路線の迷走と「失地回復」神話の創成	国際問題631
大西 健	変質するPKOへの豪軍の対応 —豪軍文書と東ティモールでの活動を通じた特徴の考察	防衛研究所紀要16(2)
池上 萬奈	第一次石油危機における日本外交	国際政治177
池内 恵	近代ジハード論の系譜学	国際政治175
池内 了	3・11 から未来を創造する—文明の転換期にある日本と世界	アジア太平洋研究39
泉 淳	米国と中東の政治変動	国際政治178
井上 あえか	カシュミール問題を考える—領土と主権の間	アジア太平洋研究39
井上 一郎	政権交代における中国外交の変化と継続性	国際政治177
今井 宏平	「イスラーム国」に翻弄されるトルコ	中東研究522
今井 静	ヨルダンにおけるシリア難民受入の展開	国際政治178
岩坂 将充	トルコにおける「民主化」の手法	国際政治178
梅山 英一	アフガニスタン大統領選挙—カルザイ大統領の政治闘争の 視点から	中東研究521
受田 宏之	現代メキシコ左翼のジレンマ—メキシコ市における左翼政党、社会運動組織、低所得層の間のインフォーマル・ポリティクス	アジア経済55(1)
及川 淳子	習近平政権下の社会変動 「維穩体制」をめぐる諸問題	国際問題631
岡田 悦子	アフリカの平和・安全保障—昨今のアフリカ連合の対応と課題	国際安全保障41(4)
岡部 恭宜	現在の脅威と将来の脅威—タイと韓国の中央銀行の独立性	レヴァミアサン55
小此木 政夫	中国外交の変容と朝鮮半島	アジア研究60(1)
小野沢 純	マレーシアは高所得国への移行が可能か	国際問題633
片岡 貞治	アフリカにおける安全保障の現在	国際安全保障41(4)
川島 真	中国における国際政治研究の展開	国際政治175
川島 緑	南部フィリピン紛争—宗教的民族概念の形成と再定義をめぐって	アジア太平洋研究39
河原 昌一郎	南シナ海問題におけるフィリピンの対中国提訴に関する一考察	国際安全保障42(2)
金谷 美紗	2014年エジプト大統領選挙—スィーサーの「圧倒的勝利」が意味すること	中東研究521
加茂 省三	アフリカの安全保障とフランス	国際安全保障41(4)
黒柳 米司	中国にとってのASEAN、ASEANにとっての中国	アジア研究60(1)
木宮 正史	米中関係と朝鮮半島	国際問題628
木村 汎	プーチンのウクライナ戦略	海外事情62(12)

小島 寛之	韓国のパブリック・ディプロマシー——「韓流」ブームからミドルパワー・ディプロマシーの推進へ	国際問題635
小窪 千早	NATO・EUの安全保障政策とアフリカ地域	国際安全保障41(4)
小林 周	不安定化の「連鎖」—リビアから「イスラーム国」への戦闘員流出	中東研究522
小坂 真也	中東における国家体制変動と移行期の正義の進展	国際政治178
近藤 則夫	インドにおける民主主義体制と「トラスト」—政治的安定性の認識構造	アジア経済55(2)
齋藤 康平	中国の海洋進出と我が国の対応について	アジア研究60(4)
坂梨 祥	イランの第11期大統領選挙 「公正な選挙」実施の試みと核交渉への影響	国際問題629
佐藤 創	キャッチアップ型工業化論と鉄鋼業——「ガーシェンクロン vs. ハーシュマン」をめぐって	アジア研究55(4)
佐藤 考一	米中関係の展開とASEAN	国際問題628
私市 正年	2014年アルジェリア大統領選挙—政軍関係の変化と先送りされた政治課題	中東研究521
庄司 智孝	南シナ海問題をめぐる安全保障と経済の交錯 フィリピンの事例を中心に	国際問題634
庄司 智孝	ASEANの「中心性」——域内・域外関係の視点から	防衛研究所紀要17(1)
清水 一史	RCEPと東アジア経済統合 東アジアのメガFTA	国際問題632
末近 浩太	中東の政治変動	国際政治178
諏訪 一幸	習近平保守派論への疑問 権力集中は悪か?	国際問題631
鈴木 恵美	エジプト再民主化プロセスにみる「軍事共和制」の強化	国際問題629
高岡 豊	「イスラーム国」とシステムとしての外国人戦闘員潜入	中東研究522
千葉 悠志	アラブ諸国における権威主義体制を支えたメディアの考察	国際政治178
津上 俊哉	改革か保守か 改革開放後の中国の経済政策とその変遷	国際問題631
富樫 耕介	「コーカサス首長国」と「イスラーム国」	中東研究522
豊田 紳	離脱と民主主義一体制変動期メキシコにおける選挙暴力抑制要因としての人口流出	レヴァミアサン54
黄 偉修	台湾における政権交代と外交安全保障政策決定過程	国際政治177
浜口 伸明	新興国と「中所得国の罫」 ブラジルの事例	国際問題633
浜中 新吾	アラブ革命の陰で	国際政治178
浜中 新吾	「アラブの春」が照射した中東地域政治の動態	アジア経済55(1)
細川 大輔	ベトナムの経済と安全保障 中国依存と領土主権のはざま	国際問題634
谷野 作太郎	中国の選択 保守か改革か	国際問題631
内藤 正典	トルコは不安定化するのか——内政と外交の危機	国際問題629
中西 嘉宏	パリア国家の自己改革	国際政治177
中村 覚	サウディアラビアのシリア政策での国内治安対策による制約	国際政治178
錦田 愛子	ハマースの政権掌握と外交政策	国際政治177
西野 純也	「米中 G2」時代の中の韓国	海外事情62(3)
堀本 武功	冷戦後のインド外交 「第2非同盟」と対米・対中政策	国際問題628
福田 安志	湾岸諸国は地域安定の錨となりうるか	国際問題629
福嶋 輝彦	米中に揺れるオーストラリア ギラード労働党政権の外交・安全保障政策を中心に	国際問題628
山尾 大	ポスト・コンフリクト社会のガバナンスを考える	年報政治学65(2)
山尾 大	一極化と分極化の狭間で——第3回イラク国会選挙の分析	中東研究521
山尾 大	外部介入における政治変動と国民統合	国際政治178
山内 昌之	2014年の中東の情勢と展望	国際問題629
山添 博史	ロシアのインド、中国、ベトナムに対する通常兵器輸出	防衛研究所紀要17(1)
湯浅 剛	中央アジアにおけるロシア主導の多国間協力 一集団防衛と経済統合の展開	防衛研究所紀要16(2)
横田 貴之	ムバーラク政権によるムスリム同胞団のコオペレーションの再考	アジア経済55(1)
米川 正子	なぜコンゴ民主共和国東部の治安が回復しないのか?——コンゴとルワンダの安全保障の意図と国連の中立性の問題	国際安全保障41(4)
吉川 卓郎	「生存の政治」における政府—イスラーム運動関係——2011年民主化運動とヨルダンのムスリム同胞団	アジア経済55(1)
パトリック・マサラン	環大西洋貿易投資パートナーシップ 多義性、機会、課題	国際問題632
溝渕 正季	シリア危機はなぜ長期化しているのか?——変容する反体制勢力と地政学的攻防	国際安全保障41(4)
溝渕 正季	「見えない敵」への爆撃	国際政治178
村上 薫	トルコにおける市民概念の再編と都市貧困層の統治—公的扶助の実践に見る市民性への重層的包摂	アジア経済55(2)
毛利 亜樹	習近平中国で語られる近代戦争	アジア研究60(4)
森 千香子	過激派の根茎を涵養するイスラームバッシング——「パリ新聞社襲撃事件」を考える	中東研究522
鷲田 任邦	集票インセンティブ契約としての資源配分政治——マレーシアの開発予算・閣僚ポスト配分	レヴァミアサン55
渡邊 覚	紛争後の治安部門改革と重・警察の役割 ——シエラレオネを事例に	防衛研究所紀要17(1)
Curoil Baba and Taylan Ozgur Kaya	Testing the creativity of Kevin Rudd's middle power diplomacy: EU-Australia partnership framework versus the Asian pacific community	International Relations of the Asia-Pacific14(2)
Mark Beeson and Richard Higgott	The changing architecture of politics in the Asia-Pacific: Australia's middle power moment?	International Relations of the Asia-Pacific14(2)
Ian Tsung-yen Chen	Balance of payments and power assessing China's global and regional interdependence relationship	International Relations of the Asia-Pacific14(2)



Benjamin E. Goldsmith	Domestic political institutions and the initiation of international conflict in East Asia	International Relations of the Asia-Pacific14(1)
Van Jackson	Power, trust, and network complexity: three logics of hedging in Asian security	International Relations of the Asia-Pacific14(3)
Kan Kimura	Introduction to the special issue: regional rivals and order in East Asia	International Relations of the Asia-Pacific14(1)
Masaru Kohno	East Asia and international relations theory	International Relations of the Asia-Pacific14(1)
Yuichi Kubota and Shinya Sasaoka	Changes in the socioeconomic structure and the attitude of citizens toward democracy in the Nepal civil war	International Relations of the Asia-Pacific14(3)
Timothy Rich	Propaganda with purpose: uncovering patterns in North Korean Nuclear Coverage, 1997-2012	International Relations of the Asia-Pacific14(3)

### [アメリカ・ヨーロッパ関係]

芦部 彰	1950年代ドイツ連邦共和国におけるキリスト教民主同盟 (CDU) の住宅政策とカトリシズム	史学研究123(4)
伊藤 剛	米中関係の構造的変容	アジア研究60(1)
大嶋 えり子	フランスによるアルジェリアに関連する記憶の承認	年報政治学65(1)
岡田 美保	ロシアの北極政策——日本への含意	国際安全保障42(1)
荻野 晃	ハンガリー外交と東欧の政治危機	国際政治176
川名 晋史	在日米軍基地再編を巡る米国の認識とその過程——起点としての1968年	国際安全保障42(3)
川上 高司	アメリカの「中東回帰」	海外事情62(3)
菅 英輝	米国外交における「ベトナム」の体験と記憶 ——「ベトナム症候群」克服の軌跡	アメリカ史研究37
倉田 秀也	在韓米軍再編と指揮体系の再検討——『戦略同盟2015』修正の力学	国際安全保障42(3)
菊地 茂雄	「軍事的オプション」をめぐる政軍関係 ——軍事力行使に係る意志決	防衛研究所紀要16(2)
久保 文明	オバマ外交のヴィジョン あるいはオバマ外交にヴィジョンはある	国際問題630
小坂 裕城	「ユダヤ人問題」の解を求めて	国際政治176
小泉 直美	ロシアの核兵器政策——その宣言と実際	国際安全保障42(2)
佐竹 知彦	米豪共同情報通信施設——米豪同盟における「物と人との協力」	国際安全保障42(3)
佐藤 丙午	米国の国際的関与と外交・安全保障政策	海外事情62(7・8)
坂口 賀朗	ロシアにおける海軍強化の方針と国防産業	防衛研究所紀要16(2)
佐原 彩子	自立を強いられる難民——1980年難民法成立過程に見る「経済的自立」の意味	アメリカ史研究37
マイク・ヘンドリック・シュプロッテ	国家に主導された市民社会？——1945年以前の日本にその手がかりを求めて	ヨーロッパ研究14
武田 健	EU政府間交渉における威圧的な脅し	国際政治177
立山 良司	オバマ政権の「中東離れ」と増大する域内の不安	国際問題630
高橋 和夫	イスラエル・ロビーは何に敗れたのか？——対イラン制裁強化法案をめぐって	中東研究520
津崎 直人	IAEA—ユーラトム協定に関する西ドイツ外交	国際政治176
ドミトリー・トレーニン	オバマ政権の対ロシア政策 モスクワの視点	国際問題630
長谷 直哉	ロシアのガス輸出政策とガスパロム	国際政治176
西川 賢	1960年大統領選挙におけるリチャード・ニクソンと公民権	年報政治学65(1)
春原 剛	オバマ外交の現在	国際問題630
山中 仁美	戦間期イギリスの国際関係研究における「理論」	国際政治175
三上 陽一	オバマ政権の中東政策における変化と一貫性	中東研究520
森井 裕一	ドイツにおける国内拘束の強まりと欧州統合——国内構造の変化と対外政策	ヨーロッパ研究13
渡辺 靖	米国のパブリック・ディプロマシーの新潮流	国際問題635
渡邊 啓貴	ヨーロッパはオバマ政権をどのようにみているのか	国際問題630
渡邊 啓貴	「安全保障共同体」としての米欧同盟の揺らぎ	海外事情62(12)
吉田 徹	政権交代とミッテラン外交	国際政治177
Calia Press-Barnathan	The impact of regional dynamics on US policy toward regional security arrangements in East Asia	International Relations of the Asia-Pacific14(3)
Arthur A. Stein	Recalcitrance and initiative: US hegemony and regional power in Asia and Europe after World War II	International Relations of the Asia-Pacific14(1)